

き除
い保
短期
い短
額少
SB

被災地で学習支援

受験生に激励文、指導も

東日本震災の影響で学習環境が悪化した中学生を支援しようと、SB I いきいき少額短期保険（本社東京都、島津勇一代表取締役社長）は現地指導員らと協力し、大船渡市内の公民施設2カ所で学習会「寺子屋いきいき世代」をおおむね月2、3回開いている。冬休み中は大船渡中学校を加えた3カ所で10日まで2、3日間の集中開催もあり、都内から社員が訪れて、高校受験を控えた生徒らに応援メッセージを書いたはがきを手渡した。



同社に招けて職業観を養ってもらうなど、さまざまな交流も続けている。学習会は赤崎地区漁村センター、末崎地区ふるさとセンターなどで、これまで延べ180回余り開き、中学生延べ900人余りが参加。「狭い仮設住宅ではなかなか落着いて勉強できないのを助かる」「分からないところを教えてもらえらる」など、中学生から感謝の声が寄せられている。冬休み中は西センターで8、9、10の西日に集中開催もあり、首都圏などから学生や社会人らがボランティアで指導に加わった。また、同社経営企画部の富永正則副部長らが会場を訪れ、学習会に参加している生徒70人に宛てて、社員45人が手分けして書いたはがきを届けた。

参加しているのは受験を控えた3年生が約8割といい、はがきには合格祈願のメッセージや、自らの受験の経験談などがつづられた。同社は14年6月に「いきいき世代」から社名を変更した。また、学習会の運営は同月、ふんぼろう東日本支援プロジェクトから一般社団法人ふんぼろう支援基金による新体制へ移行した。

受験への応援メッセージなどを書いたはがきを中学生に手渡す富永副部長（左手前から2人目）

9日、大船渡市立大船渡中学校



真剣な表情で勉強に取り組む生徒ら—赤崎地区公民館

中学生が勉学に励む 「寺子屋いきいき世代」

大船渡市内の中学校に通う生徒を対象にした学習会「寺子屋いきいき世代」は8日から3日間、同市内の4会場で開かれた。参加した生徒らは、指導員のアドバイスを受けながら、熱心に勉学に励んだ。

この学習会は、ボランティア団体・ふんぼろう東日本支援プロジェクト（西條剛央代表）が震災の影響で十分な学習環境が得られない子どもたちを支援するために開催していた。同団体が昨年9月に解消し、一般社団法人ふんぼろう支援基金（同）となった現在は、現地スタッフが中心となって活動している。今回は、末崎中学校図書室と末崎地区公民館、赤崎地区公民館、大船渡中学校図書室でそれぞれ学習会を実施。このうち、赤崎地区公民館の学習会には、3日間で延べ50人の生徒が参加した。

最終日の10日は、午前中から10人の生徒が同公民館に集まり、課題などに取り組んだ。現地の指導員や東京・仙台のボランティアスタッフのほか、学習支援活動を平成24年から継続して支援しているSB I いきいき少額短期保険（株）の社員ら合わせて7人が学習の様子を見守った。

生徒たちは、数学や英語、公民といった各教科に真剣な表情で取り組み、指導員に分からないところを尋ねるなど勉強に集中していた。

同社の担当者である経営企画部の富永正則副部長は、「中学生の皆さんが集中して勉強に取り組んでいる姿を見るとエネルギーを感じる。いい刺激になります。将来、地元はもちろん、日本や世界の発展を担う人材が生まればうれしい」と話していた。